

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策	成果と今後
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」のスピーチやインタビューにおいて、相手の話から必要な情報を的確に聞き出したり、記録をもとに考えを広げたりする力をさらに高めていくこと。 ○「書くこと」において、事実と感想、意見を区別しながら、読み手を意識して、筋道の通った構成にまとめること。また、推敲を通して表現の適切さを見直す力を高めること。 ○「読むこと」において、筆者の意図や表現の工夫に着目して読み深めたり、読んだことを根拠に自分の考えをもったりすること。 ○敬語の使い分けや語句の意味理解、漢字日常的な言語活動を通して活用の場面を広げていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話す活動では、目的や聞く内容を整理する時間を設け、聞き取った情報をもとに考えを広げてまとめる力を育てる。相手との共通点や相違点を整理するワークシートなども活用し、自分と他者の考えを比較する経験を重ねる。 ○書く活動では、「考えと理由」「原因と結果」などの構成を意識させ、構成メモや表を活用して筋道の通った文章を書く力を育てる。事実・感想・意見の違いを明確にし、書いた文章を読み合って意見を伝え合う時間を設け、表現を見直す力につなげる。 ○読む活動では、筆者の考えや登場人物の心情を捉えるための視点を示し、事実や事例、感想や意見に着目して読み取らせる。行動や会話、情景などに注目して場面ごとに比較し、自分の考えをもてるようにする。 ○敬語や語句の使い方については、日常の言語活動を通して自然な活用を促し、漢字については練習課題などを取り入れて定着を図る。 	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話す活動では、目的や聞く内容を整理する時間を設けたことで、聞き取った情報をもとに考えを広げたり、自分の考えをまとめたりする姿が見られるようになった。ワークシートを活用することで、相手との共通点や相違点を整理しながら考えを深める様子も見られた。 ○書く活動では、「考えと理由」「原因と結果」といった構成を意識させたことで、構成を考えながら文章を書こうとする姿が見られるようになった。書いた文章を読み合い、意見を伝え合う活動を通して、表現を見直そうとする意識も高まりつつある。 ○読む活動では、筆者の考えや登場人物の心情に着目する視点を示すことで、事実や事例、行動や会話などを手掛かりに内容を捉えようとする姿が見られた。場面ごとに比べながら読み進めることで、自分の考えをもとうとする様子も見られた。 ○敬語や語句の使い方、漢字については、日常の言語活動や練習課題を通して繰り返し扱うことで、正しく使おうとする意識が少しずつ高まってきている。 <p>〈今後〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話す活動では、目的や聞く内容を意識して話し合う経験を重ね、聞き取った情報をもとに自分の考えを広げたりまとめたりする力をさらに育てていく。 ○書く活動では、文章の構成を意識しながら筋道の通った文章を書くことができるよう、構成メモや表を活用した指導を継続していく。また、読み合う活動を通して表現を見直す力を高めていく。 ○読む活動では、筆者の考えや登場人物の心情に着目して読み取る視点を引き続き示し、事実や事例を根拠にしながら自分の考えをもてるよう指導していく。 ○敬語や語句の使い方、漢字については、日常の言語活動の中で繰り返し扱い、正しく使うことができるよう定着を図っていく。

<p>社会科</p>	<p>○先行した知識に頼るのではなく、資料を的確に読み取りながら社会的事象について考えること。</p> <p>○調べ学習において、気付いたことや分かったことを工夫してまとめること。</p>	<p>○資料を読み取る場面を意図的に設定し、読み取ったことや考えたことを学級全体・児童同士で共有する活動を取り入れる。</p> <p>○イラストやデータを効果的に用いるなど、調べたことを分かりやすくまとめるためにできる工夫について指導をする。</p> <p>○児童の成果物を見せ合う活動を取り入れたら、学級全体に示したりするなど、児童の工夫を価値付けて次の学習に対する意欲を創出する。</p>	<p><成果></p> <p>○写真やグラフなどの資料を的確に読み取り、社会的事象について考える力が高まった。</p> <p>○自分自身が分かったことや資料から読み取ったことについて、共有することを通して考えを深めることができた。</p> <p>○ノートでのまとめに取り組む際、イラストや資料、記号を活用したり、配色について考えたりするなど工夫しながら取り組む様子が見られた。</p> <p><今後></p> <p>○成果物を見せ合ったり、考えたことや気付いたことを共有する機会をさらに設定することで、児童が自分の考えを説明したり、他者の工夫に気付いたりできるようにする。</p>
<p>算数科</p>	<p>○作図や数字、記号の書き方、小数点の打ち方など、正しい書き方を定着させること。</p> <p>○文章をじっくり読んで式の意味を考えたり、筋道を立てて考察したりすること。また、自分の考えを説明したり、答えを見直したりしてよりよい解決方法を見つけていくこと。</p> <p>○桁数の多い計算や四捨五入など、5年生までに学習した計算や数の処理を正確に行うこと。</p>	<p>○正しく書くことの意義などを伝え、毎時間声掛けをしていく。</p> <p>○自分の考えを説明するときに、式、図、言葉などを用いて考えられるよう指導していく。考えを共有する時間を確保し、思考を広げ深められるようにしていく。また、日常生活と関連付けることで、生活の中で役立つことを実感させる。</p> <p>○5年生までに学習した内容を、繰り返し復習する時間を、授業の最初に設ける。</p>	<p><成果></p> <p>○学年間で指導内容を共有し、統一した指導を毎時間行ったことで、数字や単位を正しく書くことができるようになった。</p> <p>○ノートやタブレットでの ICT 機器の活用を通して、様々な考え方を共有することができた。答え合わせではなく、多様な見方考え方を学び、他の人の考えも聞きたいと思う児童が増えた。</p> <p>○既習内容を、学習前に確認することで、学習の定着を図ることができた。</p> <p><今後></p> <p>○答えを出すまでの過程の大切さを児童に理解させるために、交流場面で分かりやすく説明することを意識するように指導していく。</p>

理科	<p>○考察の際に、もっている知識から考えるのではなく、実験や観察を通して得られた結果から考えること。</p> <p>○日常生活と事象を結び付けて考えること。</p>	<p>○考察については、実験の結果を丁寧に振り返り、そこから分かったことを書くよう指導を続ける。</p> <p>○日常生活の中で児童が感じている疑問等を出発点とした授業作りを行う。</p>	<p><成果> 実験の結果を丁寧に振り返り、そこから分かったことをまとめるよう継続して指導したことで、結果と考察を結び付けて考えようとする姿が見られるようになった。また、日常生活の中の疑問を出発点とした授業づくりを行うことで、学習内容を身近な事象と関連付けて考える姿が見られた。</p> <p><今後> 今後も実験結果をもとに理由を考え、考察を深めることができるよう指導を継続していく。また、児童の疑問や気付きを生かした授業づくりを通して、主体的に学習に取り組む姿をさらに育てていきたい。</p>
音楽科	<p>○どの題材においても、表現への意欲を十分に引き出し、集中できるよう、みんなで表現を高め合う雰囲気を作っていくこと。</p>	<p>○題材によって、ICT機器や視聴覚教材を効果的に取り入れ、友達同士の意見交流の時間を確保するなど、児童が主体的に活動するように授業を組み立てる。</p> <p>○技術的な指導以外で、授業者が話しすぎ、児童が受け身になっていないかを絶えず意識し、児童が主体者となって意欲的に表現活動を行えるようにする。</p>	<p><成果> ○鑑賞の授業では、今までの学習を生かして、楽曲を特徴づける様々な要素に気付き、活発な意見交換を行うことができた。 ○作曲者の意図や歌詞に込められた思いをみんなが共有し、曲想にあった表現を工夫することができた。</p> <p><今後> ○次年度の開校100周年の行事を見据え、児童がすすんで表現したくなるような教材を選び、年間の授業計画を立てて臨みたい。</p>
図画工作科	<p>○主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組む児童が多い一方で、消極的な児童の意欲を引き出すこと。</p>	<p>○様々な表現方法を体験させ、表現の幅を広げ、どの児童もつくり出す喜びを味わうことができるよう指導する。これまでの経験を生かし、児童が表現に適した方法などを組み合わせて工夫することができるように、材料や用具を選択できる場の設定を行う。</p>	<p><成果> ○主体性をもち、これまでの経験をもとに表したいことに合わせて表現方法を工夫することができた。</p> <p><今後> ○題材によっては興味関心が低い児童もいる。児童の実態や他教科との横断的な学習も意識して授業計画を立てる。</p>

家庭科	<p>○既習事項を生かして学習できる題材構成にすること。</p> <p>○一人一人に基礎的・基本的な知識及び技能を定着させること。</p>	<p>○題材ごとのつながりを明確にして、既習事項を振り返りながら指導を進める。</p> <p>○家庭での経験の差が見られるため、学習内容によってグループ指導・個別指導を適切に取り入れる。</p>	<p>〈成果〉</p> <p>○単元の初めには、5年生の復習から行うことで、苦手意識の強い児童でも興味・関心をもって授業に臨むことができた。</p> <p>○個に応じた課題を設定することやICT 機器を積極的に活用することで、楽しみながら学ばせることができた。</p> <p>○授業内に裁縫の製作が終わらなかった際は、休み時間を活用し指導を行うことで、全児童が課題を提出することができた。</p> <p>〈今後〉</p> <p>○引き続き安全管理を徹底して、ミシンや調理の実習を行う。</p>
体育科	<p>○体の使い方や動かし方など、どうしたらできるようになるかを意識し、運動すること。</p> <p>○授業の中で得たことを日常生活に生かし、運動の機会を確保していくこと。</p>	<p>○体の使い方や動かし方などをタブレット等で客観的に見て自己分析する時間、課題をより解決していくために友達を見合う時間の両方を設定する。児童が自ら考えたり工夫したりしながら動きの課題を解決できるよう習慣を図っていく。</p> <p>○児童が日常生活において実感できる運動の楽しさに気付くことができるよう、学習内容を工夫するとともに、休み時間等を活用した運動機会の確保に努める。また、安全かつ効果的に運動が行えるよう、場の確保や用具の準備を計画的に行っていく。</p>	<p>〈成果〉</p> <p>○体の使い方や動かし方について、タブレット等で自分の動きを客観的に確認し自己分析する時間と、友達同士で見合い助言し合う時間の両方を設定したことで、児童が課題を具体的に捉え、自ら考え工夫しながら改善しようとする姿が見られた。</p> <p>○児童が日常生活の中でも運動の楽しさを実感できるよう学習内容を工夫するとともに、休み時間等を活用した運動機会の確保に努めたことで、すすんで体を動かそうとする様子が増えてきた。</p> <p>〈今後〉</p> <p>○自己分析や友達同士で見合い、助言し合う活動を取り入れた授業を継続し、動きの課題を主体的に解決できる力を育てていく。また、安全面に配慮しながら場の確保や用具の準備を計画的に行い、誰もが安心して継続的に運動に親しめる環境づくりを進めていく。</p>

<p>外国語科</p>	<p>○「聞くこと」において、既習の英単語や英語表現から場面や状況などを想像しながら、文章全体の意味をおおむね理解すること。</p> <p>○「話すこと」において、場面や状況などに配慮しながら、自分の気持ちや考えなどを既習の英単語や英語表現を用いながら相手に伝えること。</p> <p>○中学校へ向けて学習内容が徐々に難しくなっていくため、学習の定着度を高めること。</p>	<p>○教師は扱う英語表現を精査し、既習の英単語や英語表現は都度確認する。また児童に英語を聞かせるときには動画や写真、デモンストレーションなどを見せることで、児童には場面や状況などを想像しやすくし、文章全体の意味をおおむね理解できるようにする。</p> <p>○基本的な英語表現を歌やチャンツなどで児童に慣れ親しませ、児童が身に付けた英語表現を場面や状況に応じて使ってみたいと思えるような課題や活動を意図的に授業の中に取り入れる。</p> <p>○ICT教材やデジタル教科書、発表用スライドなどを有効的に活用し、児童が自ら学び方や学習内容を選べるようにするとともに個々の学びをより深められるようにする。</p>	<p>〈成果〉</p> <p>○児童にデモンストレーションを見せることを通して、児童は場面や状況などを想像しやすく、「聞くこと」において文章全体の意味をおおむね理解できるようになった。</p> <p>○歌やチャンツ、ペアトークを多く取り入れたことで、「話すこと」において、自分の気持ちや考えなどを既習の英単語や英語表現を用いながら、一人で相手に伝えることができるようになった。</p> <p>〈今後〉</p> <p>○アルファベットやピリオドの正しい書き方の定着が十分ではない。ICT機器を用いたアルファベットの学習を取り入れて中学校での学習をイメージさせ、学習に取り組ませていく。</p>
<p>道徳</p>	<p>○友達の思いや考えによって自分の考えがどのように変容したかを考えるなど、多様な考え方を受け入れ、認めていくこと。</p> <p>○自分自身の感じたことや考えたことを大切に、自己を見つめていくこと。</p>	<p>○児童が多様な考え方に触れられるように、他者と思いや考えを共有する時間を毎時間必ず確保する。</p> <p>○共有後、他者の意見で「納得できたところ」や「共感できたこと」を考える時間を設ける。</p> <p>○毎時間の終末で、自己を見つめることができるように、振り返りの時間を十分な時間確保し、全体で共有できるようにしていく。</p>	<p>〈成果〉</p> <p>○授業内で意見を共有する時間を設定することで、児童が様々な考え方に触れながら道徳的価値について考えることができた。</p> <p>○共有後にもう一度考える時間を設定し、自分自身の意見を強化したり、変容に気付いたりすることができる児童が増えた。</p> <p>〈今後〉</p> <p>○意見の共有から自己の振り返りまでの時間を十分に設定することができるように、計画的に指導していく。</p>

<p>○相手意識をもって、魅力ある発表を行うこと。</p>	<p>○まとめ方には、プレゼンテーションソフトの活用以外にも、パンフレットにまとめたり体験型にしたり、様々な方法があることを教え、選択できるようにする。また、話し方についても、聞き手と目を合わせて話すよさやジェスチャーの与える印象などについて確認する。</p>	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none">○発表相手を外部に設定したことで、相手意識をもってよりよい発表をしたいと意欲が高まった。○プレゼンテーション、体験型、ポスター等、児童が選択した方法で発表することができた。 <p>〈今後〉</p> <ul style="list-style-type: none">○資料を用意したり、相手を引き込む話し方をしたりすることができるよう、日頃の授業での発表意識も高めていく。
-------------------------------	--	---